局

会派名称	支出伝票番号
維新　さとう知一	25 － 372

政務活動費支出伝票

経費区分	会議費
支出年月日	令和 7 年 7 月 16 日
支出額	3,187 円

使途及び内容

会議費

按分による支出の場合の記載事項

・全体の経費（　3,187円）．．．A

・按分の率（　100％）．．．．．．B

政務活動費の支出額

A × B ＝ 3,187 円

≪領収書等証拠書類の添付欄≫

備考欄

茶菓子代（7月14日～16日視察時）
政務活動費(県外)支出票参照

9:18

ekimo梅田
ミスタードーナツ

2025年7月16日 09時05分

2,107円

支払い完了

詳細を表示する

付与予定のポイント
30 pt (8月15日付与予定)

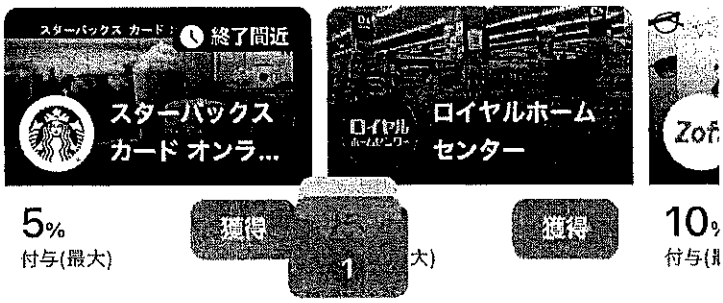
PayPayステップ

支払い回数(200円以上)　支払い金額

[redacted] / 30回　[redacted] / 100,000円

来月の付与率+0.5%まであと[redacted]

あなたにおすすめのクーポン



5%
付与(最大)

10%
付与(最大)

セブン-イレブン
東大阪荒本北２丁目店
大阪府東大阪市荒本北２丁目２番３号
電話：06-6744-7411　ﾚｼﾞ#3

事業者登録番号T6122003002393
2025年07月14日(月) 12:46　責001

領収書

ｱｶｲﾎﾞｳｼ ﾋﾞｰﾅｽｽﾄｰﾘｰ　*1,000

小　計（税抜 8%）　¥1,000
消費税等（ 8%）　¥80
合　計　¥1,080
（税率 8%対象　¥1,080）
（内消費税等 8%　¥80）
PayPay支払　¥1,080
お買上明細は上記のとおりです。
[*]マークは軽減税率対象です。
#1227620250714124611378110314013
伝票番号　250-714-361-9093

（第1号様式）

政務活動費（県外・国外）支出票

会派(議員)名　維新 さとう知一

政務活動を次のとおり実施しましたので、報告いたします。

1　参加議員	さとう知一		
2　目　的	別紙記載		
3　期　間	令和　7年　7月　14日　～　令和　7年　7月　16日		
4　実施場所並びに日程	月日	時間	実施場所
	7月14日	13:00～13:50	東大阪市役所
	7月14日	14:00～14:55	MOBIO常設展示場視察
	7月14日	15:00～15:30	大阪街中ものづくりパビリオン事業視察
	7月14日	17:00～21:00	大阪・関西万博（夢洲）視察
	7月15日	10:00～20：40	大阪・関西万博（夢洲）視察　二日目
	#		
	7月16日	10:00～12:00	久保井インキ株式会社
5　結果・報告	別紙記載		
6　経費内訳	項目	金額(円)	内容
	茶菓子代	3187	
	《合計》	3187	

2025年7月14日（月）～16日（水）

大阪・関西万博及び関連施設等 視察報告書

神奈川県議会議員 さとう知一

今回の現地調査に際しましては、特に以下の皆様に多大なるご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。
公益財団法人大阪産業局 [redacted]様、MOBIO（モビオ）ものづくりビジネスセンター大阪 事業部 取引支援チーム [redacted] コーディネーター 様・[redacted]様、リカザイ株式会社(川崎市中原区本社／関西営業所)シニアセールスエクスパート [redacted]様、久保井インキ株式会社　代表取締役　久保井伸輔 様　　その他、ご対応・ご協力頂いた多くの皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

【視察の目的】

① 2027年国際園芸博覧会に備えた先行事例視察
神奈川県横浜市（旧上瀬谷通信施設跡地）で2027年3月～9月に開催される国際園芸博覧会（想定来場者：約1,500万人、建設費：約320億円）の成功に向け、現在開催中の大阪・関西万博における施設運営、展示構成、広域交通、バリアフリー対応、多文化対応、輸送・安全対策等について、先進事例を現地で学ぶ。

② 共生社会の実現に向けたバリアフリー施策調査
大阪・関西万博では「共に創るバリアフリーな未来」を掲げ、多様なアクセシビリティ施策を導入。障がい者や高齢者が安心して参加できる環境整備の実態と課題を把握し、「ともに生きる社会かながわ憲章」に基づく神奈川県の共生社会政策への活用を図る。

③ ロボット・先端産業振興と人材育成施策の研究
「未来づくりロボットWeek」等において、ロボット技術の社会実装や企業支援、展示のあり方等を視察し、さがみロボット産業特区やJAXA相模原など神奈川県の産業政策・人材育成への展開を模索。あわせて中小製造業支援の現地取組も調査。

【視察日程・内容】
◆7月14日（月）
・ 10:39 新大阪着（新幹線のぞみ15号）→ホテルチェックイン

・13:00 東大阪市役所 東大阪市役所 展望ロビー　及び　1階ロビー「東大阪ブランド」展示スペース視察
・14:00 MOBIO 常設展示場（東大阪市）視察
・日本最大級のものづくり展示施設（約200社出展）を視察。川崎市の企業リカザイ株式会社のブースにも訪問。
・【対応者】[redacted]氏（MOBIO取引支援チーム）、[redacted]氏（リカザイ株式会社・本社 川崎市中原区）
・15:00 大阪街中ものづくりパビリオン（MOBIO事業部）
・公益財団法人大阪産業局[redacted]氏から取組の概要説明。都市空間と地域産業の連携モデルを確認。
・17:00～21:00 大阪・関西万博会場（夢洲）視察（初日）
・公益財団法人大阪産業局によるパビリオン展示（「MOBIO 大阪パビリオン展示 No/BORdER～国境・垣根・時代・カベを越える技術展～」）を視察。
・大雨による動線確保や安全対応なども現地確認。
・計10カ国のパビリオンを視察（例：アラブ首長国連邦、ブラジル、ベトナム、ポルトガル、国連 等）
・「未来づくりロボット Week」会場にて展示見学（EXPO メッセ South）

――

◆7月15日（火）
・終日：大阪・関西万博会場再視察（2日目）
・以下の国際パビリオン、コンテンツを中心に視察：
・マレーシア、モザンビーク、バングラデシュ、セネガル、アルジェリア、EU、タイ（稲刈りの舞）、トルコ、インド、インドネシア、韓国、他
・「輪島塗大型地球儀」「空飛ぶクルマ」「デジタルウォレットパーク」など未来志向の展示多数。
・パビリオン混雑・体感温度・動線設計などを体験的に確認。
・「飯田グループ・大阪公立大学」共同パビリオン：予約制にて訪問（入室遅延あり）

――

◆7月16日（水）
・10:00 久保井インキ株式会社（大阪市東成区）視察
・高機能インキ製造を通じて、医療・環境・福祉等へ貢献する中小企業の代表格。
・万博出展企業として、展示効果・事業展開・国際展開戦略などについてヒアリング。
・【対応者】代表取締役[redacted]氏（アポイント済）
・19:30 新大阪発 → 21:38 新横浜着（新幹線）

【主な調査政策的示唆】

・園芸博開催に向けた参考
・万博来場者動線、気象対応、安全確保、バリアフリー整備など、実務上の課題とその対応策を多角的に把握。
・インバウンド対応（多言語・案内表示）も2027年に向け強化が必要。
・共生社会の具現化
・会場の段差解消、誘導表示、ピクトグラム、多言語化の取組は高水準。
・神奈川県の共生政策にも通じる事例多数。
・ロボット技術・人材育成
・ロボット導入の現場連携型モデル（医療・介護・防災）が注目され、特区政策の進化の方向性を示唆。
・中小企業展示支援（MOBIO型施設）は県内産業政策においてもモデル化が可能。

【調査先別 視察結果】

視察先１：東大阪市役所 展望ロビーおよび１階ロビー「東大阪ブランド」展示スペース
視察日：令和７年７月１４日（月）13:00～13:45

今回、東大阪市役所を訪問し、22階展望ロビーおよび1階ロビーに設けられた「東大阪ブランド」展示スペースの視察を行った。

■「東大阪ブランド」展示スペースについて
東大阪ブランドは、東大阪市内の優れた中小ものづくり企業の製品をブランド認定し、その価値を高めるとともに、イベント出展やウェブでの広報活動を通じて販路開拓を支援する制度である。展示スペースは2021年4月にリニューアルされ、市役所1階という公共性の高い場所を活用して、広く一般市民や来庁者に向けて常設展示が行われている。
展示は製品そのものだけでなく、開発の背景や技術の特長についても分かりやすく紹介されており、行政が地域産業のブランド力向上とビジネスマッチングを積極的に支援する姿勢が見て取れた。また、こうした取組を通じて、2025年の大阪・関西万博への出展（9月5日～8日）も予定されており、地元企業の技術力と魅力を国内外に発信する絶好の機会となっている。

■展望ロビーについて
展望ロビーは地上100メートル、22階に位置し、大阪市内の眺望を一望できる開放的な空間で、日本夜景遺産にも認定されている。公共施設としては珍しく、午前9時から午後11時まで開放されており、市民の憩いの場、また市外からの来訪者にとっても地域の魅力を体感できるスポットとなっている。

■所感・今後の活用可能性
今回の視察を通じて、行政が「展示・PRの場」として庁舎スペースを戦略的に活用する好事例を確認することができた。中小企業支援や地域ブランド育成、万博を契機とした販路拡大など、神奈川県内においても今後検討すべき政策のヒントが多く得られた。特に、「自治体が持つ公共空間を、地元企業や住民との協働によって活用する」という姿勢は、地域のにぎわい創出と産業振興の両面から効果が見込める取組であり、県庁舎や市町村庁舎への応用も視野に入る。

視察先２：MOBIO（ものづくりビジネスセンター大阪）常設展示場
視察日：令和７年７月１４日（月）13:55～14:10

大阪府が設置し、大阪産業局が運営する「MOBIO（ものづくりビジネスセンター大阪）」の常設展示場を視察した。
同展示場は、日本最大級の中小企業向けものづくり展示空間であり、約200ブースにわたって各企業の製品・技術が実物展示・映像・パネルで紹介されている。展示のみならず、専任のコーディネーターによる解説が行われ、視察者・バイヤー・一般来場者それぞれの立場に応じた実践的な情報提供が行われている点も特色である。

当日は、MOBIO 事業部 取引支援チームの[redacted]コーディネーターより詳細な案内を受けるとともに、実際に常設出展している企業のひとつ、川崎市中原区に本社を構えるリカザイ株式会社の[redacted]氏（関西営業所 シニアセールスエクスパート）より、展示企業の視点での運用実態についてヒアリングを行った。
中小企業の販路拡大支援、技術シーズとニーズのマッチング支援は、神奈川県でも重要施策の一つであるが、MOBIOのようにリアルな展示・交流の場を活用しつつ、コーディネーター等専門人材が介在する支援モデルは、極めて実効性の高いものと感じた。今後の県施策への応用に向けた示唆を得ることができた。

※ その後の万博会場「EXPO 2025 大阪ヘルスケアパビリオン リボーンチャレンジ」では、公益財団法人大阪産業局によるパビリオン展示（「MOBIO大阪パビリオン展示No/BORdER ～国境・垣根・時代・カベを越える技術展～」）を視察する。

視察先３：公益財団法人大阪産業局 MOBIO事業部 「大阪街中ものづくりパビリオン」
視察日：令和７年７月１４日（月）14:00～15:10

公益財団法人大阪産業局MOBIO事業部が推進する「大阪街中（まちじゅう）ものづくりパビリオン」の取組について、事業支援チームの[redacted]チーフ（大阪府より出向）よりご説明をいただいた。

本事業は、2025年大阪・関西万博との連携施策の一環として、市内各所を「展示の場」と位置づけ、地元ものづくり企業やその技術力を都市空間の中で発信するという斬新なアプローチを特徴とする。商業施設や公共スペース、大学などを巻き込みながら、点在する展示を通じて地域全体を一種のパビリオンとして構成する仕組みである。
こうした空間活用の手法は、地域経済の活性化のみならず、一般市民の技術への理解促進や教育的効果も期待できる。また、観光・回遊性との相乗効果も高く、地域資源の新たな価値創出につながっている。
神奈川県においても、「さがみロボット産業特区」や「JAXA相模原キャンパス」といった産業集積地域における連携強化を推進してきたが、より都市スケールでの展開やパブリックスペースを活用した情報発信など、大阪の事例は今後の政策形成において大いに参考となるものであった。
※ その後の万博会場「EXPO 2025大阪ヘルスケアパビリオン リボーンチャレンジ」では、公益財団法人大阪産業局によるパビリオン展示(「MOBIO大阪パビリオン展示No/BORdER ～国境・垣根・時代・カベを越える技術展～」) を視察する。

視察先４：大阪・関西万博会場（夢洲）
視察日：令和７年７月14日（月） 17:00～21:00（4時間）

大阪・関西万博会場（夢洲）を訪問し、午後5時よりEXPO内の主要展示エリアを巡回した。今回の視察では、各国パビリオンにおける展示手法や先端技術の社会実装例、デジタルツイン・グリーン技術の利活用状況等を実地で確認。併せて、動線設計や混雑対応、安全性・快適性といった現場運営面の観察も含め、神奈川県の今後の政策形成に有益な知見を得ることができた。

■「未来づくりロボットWeek」視察について
視察当日、万博会場内「EXPOメッセSouth」では、「未来づくりロボットWeek」が開催されていた。主催は未来づくりロボットWeek実行委員会（仮称）であり、「いのち輝く未来社会のデザイン」という万博の基本テーマのもと、日本のものづくりやおもてなしの技術を“ロボット”で未来へつなぐ展示・体験型イベントである。
神奈川県においては、「さがみロボット産業特区」の推進をはじめ、生活支援ロボットの開発・実証・普及を一貫して進めており、ロボット施策は本県施策の中核的テーマの一つである。黒岩県政下においても、「いのち」と「ロボット」は政策を象徴するキーワードであり、本イベントにおける展示内容や理念との親和性も極めて高い。今回の視察により、県のロボット関連政策の今後の方向性や連携可能性に関する具体的な示唆を得ることができた。

■視察した主なパビリオン（計10か所）
・大阪ヘルスケアパビリオン（公益財団法人大阪産業局・MOBIO大阪）

・アラブ首長国連邦パビリオン
・ロボットモビリティステーション
・ポルトガルパビリオン
・国連パビリオン
・ブラジルパビリオン
・カタールパビリオン
・ベトナムパビリオン
・コロンビアパビリオン
・国際赤十字・赤新月運動館

この他、フィリピンパビリオンにも訪問を試みたが、約 40 分の待機後、機材トラブルによる入場中止となり、見学は断念した。いずれの展示も、デザイン・技術・文化的背景の融合が図られており、各国が掲げる未来像や政策的優先テーマを体感的に理解する好機となった。

■運営・設計・環境面での所感
視察時（17 時以降）は比較的混雑のピークを過ぎた時間帯であり、予約なしでも多くのパビリオンを巡ることが可能であった。また、途中 2〜3 回の休憩を挟みつつも、スムーズな動線での見学が可能であったことは、会場設計の効果を実感する点でもあった。
一方で、午後 4 時頃より強いにわか雨が発生し、夕方まで続いたことから、荒天時の来場者誘導、安全対策、仮設通路の整備状況など、リスクマネジメント面の運営状況も観察できた。加えて、湿度の急上昇により不快指数が 80 前後に達し、夏季開催下における熱中症対策・環境制御（ミスト・日除け・空調等）の必要性についても、多くの示唆を得ることができた。

■総括
今回の視察は、万博の理念的側面（「いのち輝く未来社会のデザイン」）を実地で体感しつつ、神奈川県のこれまでの施策との連動性や、次なる展開可能性を再確認する機会となった。また、展示・体験・空間設計・環境管理・国際連携の各側面において、多くの政策的示唆を得る有意義な視察であった。今後の県政展開、特に産業政策・国際戦略・スマートシティ施策等への反映が期待される。

視察先５：大阪・関西万博会場（夢洲）（二回目）
視察日：令和 7 年 7 月 15 日（火） 09:00〜21:00（12 時間）

天候は「午前中ににわか雨、その後晴れ」となり、午後は不快指数 80 前後の蒸し暑い気候となった。真夏期の開催を想定した熱中症対策や気候対応設計の検証にも貴重な機会となった。
視察では、「いのち輝く未来社会のデザイン」という万博の全体テーマが各国においてどのように具現化されているのかを現地で体感し、神奈川県における「いのち」「未来社会」の政策形成に資する視点を多角的に得ることができた。

■視察した主な展示・パビリオン等（計 28 か所）

・マレーシア　・モザンビーク　・ビューティーダイアログ
・コモンズ D／E（漫画展示）／F　・バングラデシュ
・セネガル　・カンボジア　・韓国
・アルジェリア　・ヨーロピアンユニオン（EU）
・飯田グループ　・大阪公立大学共同出展（機材トラブルにより入場 40 分遅延）
・スペイン（夕食は併設レストランにて）　・タイ（稲刈りの舞による公演）
・モナコ公国　・輪島塗大型地球儀「Earth at Night - Traditional Kogei」
・デジタルウォレットパーク　・空飛ぶクルマ展示
・ペルー　・コモンズ A・B・C　・バーラト（インド）
・インドネシア　・サウジアラビア　・トルコ

これらのパビリオンにおいて、先端技術の実装・文化の継承・教育やジェンダーへの配慮など、各国独自のアプローチを実際に体感した。

■国際交流と現地での所感

当日は、ブルネイの[redacted]国王の誕生日でもあり、現地ではセントルシアの青年、ブルネイパビリオンの担当者との交流や、ジャマイカブース前にてジンバブエ出身の訪問者との記念撮影など、多文化的な交流が自然に生まれる現場に立ち会うことができた。万博の意義である「草の根的な国際交流」の実際の姿を確認した意義深い場面であった。

トラブルとしては、15 時 30 分に予約していた「飯田グループ・大阪公立大学共同出展パビリオン」で機材トラブルが発生し、約 40 分の入場遅延が生じたが、その他に特段の支障はなかった。

なお、前日に引き続き実施予定だった夜間ドローンショー「One World, One Planet.」は、強風により中止となった。

■【視察の収穫と政策的示唆】

今回の視察を通じて、各国のパビリオンが描く「未来社会像」は、先進技術にとどまらず、環境・文化・福祉・教育・ジェンダーといった広範なテーマを含み、「いのちを尊重する社会」を多様に表現していた点が印象的であった。また、経済規模や地政学的背景が異なる国々が、それぞれの立場から「人間中心の社会像」を模索している姿は、神奈川県における包摂的・持続可能な地域社会づくりにおける政策形成に強い示唆を与えるものであった。

特に以下の観点で、今後の政策展開への活用が期待される：

・生活者目線での ICT／デジタル技術の活用
・脱炭素・再エネと結びつけた都市計画
・高齢者や子どもに優しいインクルーシブなまちづくりの視点
・国際的視野を持った草の根交流の促進

■総括
この視察は、単なる展示見学にとどまらず、「世界が描く未来像」と「自らの地域への応用可能性」とを照らし合わせる実践的な調査であった。今後の県政運営においては、「万博で見たもの」をどう地元へ根付かせ、神奈川らしい“いのち輝く社会”を実現していくかという視座を持って、政策立案・地域活性化に取り組んでいく必要があると改めて認識した。

視察先６：久保井インキ株式会社（代表取締役 [redacted]氏）（大阪市東成区）
視察日：令和７年７月16日（水） 10:00～12:00

■企業概要
久保井インキ株式会社は、印刷用インキを基幹事業としながらも、医療・福祉・環境など多分野への技術応用を進めている高機能材料メーカーである。創業以来、一貫して独自開発による技術革新を追求しており、東京都練馬区の営業所のほか、名古屋・米国・欧州・韓国・台湾・東南アジアへと事業拠点・代理店網を展開している。国際的な競争環境の中でも、中小企業としての強みと柔軟性を活かし、積極的な海外展開を行っていることが特徴である。

■万博出展とその意義
同社は、2025年5月20日～26日に大阪ヘルスケアパビリオンへ出展。健康、福祉、環境負荷低減などの社会課題に対する技術的解決策を提案し、国内外の来場者や産業関係者から高い関心を集めた。万博出展にあたっては、行政との連携や支援を得ながら、企業ブランディング、商談機会の創出、新規市場の開拓を意図した戦略的な位置づけで臨んだとのことである。

■視察の目的とヒアリング内容
大阪府に本社を構える「久保井インキ株式会社」では、従来より、香りを印刷可能とする「香料インキ」の開発・製造を行っており、香りを活用した印刷物（名刺・ポスター等）を展開している。同社は、現在開催中の大阪・関西万博において、「香りとアートで健康と癒し！」をテーマに出展しており、その取組は、神奈川県が推進する「未病」改善の理念と深く親和性を持つものである。
本視察では、万博出展の背景や準備プロセス、行政との関係性に加え、以下の観点でヒアリングを実施した：
・① 万博出展の成果と課題
展示による直接的な商談成立は限定的ながらも、企業認知度の向上、人材採用への波及効果、SDGs関連分野での企業評価向上など、副次的効果は大きかったとの説明があった。
・② 中小企業としての国際展開戦略
大企業との垂直統合ではなく、独自技術と専門性による差別化が国際市場でも通用する

戦略であり、商社・研究機関・行政との連携が不可欠であると指摘された。

・③ インキ技術の異分野応用

近年では医療現場における抗菌・抗ウイルス機能インキの開発、環境配慮型の植物性インキなども手がけており、「印刷業」から「高機能素材産業」への転換が進行中である。

・④ 地域産業とグローバル展開の両立

地域との結びつきを維持しつつ、国外展開を行うには人材確保・法規制対応・物流インフラの課題があり、行政支援のあり方が重要であるとの指摘をいただいた。

■所見と政策的示唆

・ 万博出展は、中小企業にとっての ブランド価値向上・市場開拓の重要な契機 となり得る一方、 出展後の継続支援（販路開拓、PR、ネットワーキング）が不可欠である。

・ 高機能素材の応用は、印刷やパッケージ分野にとどまらず、医療・介護・防災分野にまで展開可能であり、地域の産業政策とも高い親和性を持つ。

・ 地方発の技術が世界で認知されるためには、 自治体と中小企業・研究機関・金融機関とのハブ的な役割を担う支援スキーム の構築が求められる。

・ 地場産業の活性化とグローバル展開の両立を図るには、 「中小企業の国際戦略」を位置づけた支援制度の拡充 が重要である。



補足：「2027 年国際園芸博覧会に備えた万博視察」の視点

2027 年、神奈川県内（横浜市旭区・瀬谷区の旧上瀬谷通信施設の一部）において、「2027 年国際園芸博覧会」が開催される。開催期間は 2027 年 3 月 19 日から 9 月 26 日まで、想定来場者数は約 1,500 万人、建設費は約 320 億円、テーマは「幸せを創る明日の風景～Scenery of the Future for Happiness～」である。
神奈川県議会ではこの万博の成功に向けて「2027 年国際園芸博覧会を成功させる神奈川県議会議員の会（花博議員連盟）」を設立し、日本維新の会県議団は全員がメンバーとして参画しています。3 月には公益財団法人 2027 年国際園芸博覧会協会より、[redacted]事務総長、[redacted]事務次長を県庁に迎え、事業概要の説明を受けたところである。
開催規模としては大阪・関西万博の約半分とされているが、経済波及効果は 7,000 億円を超えるとされ、全国的にも大きな注目を集めている。本県としても、大規模イベントに合わせて「PR ブース」の設置など準備を進めているが、広域交通やバリアフリー、多文化対応など課題も多く、先行事例からの学びが不可欠である。
2024 年 3 月には、日本維新の会県議団として、開催前の大阪・関西万博の準備状況を調査した。今回の視察では、実際に開催されている会場の運営や来場者対応、展示の実態を確認し、２年後の本県開催に活かす具体的な示唆を得ることを目的とする。

※ 日本維新の会県議団では、令和 6 年 3 月 27 日から 29 日にかけて実施した議会派遣（県政調査）において、大阪・関西万博の開催に関する現地視察を行った。令和 6 年の調査では、大阪府庁咲州庁舎にて、大阪府市万博推進局（[redacted]調整担当課長ほか）より、2025 年大阪・関西万博の開催に向けた取り組みについて説明を受けた。当該調査は庁舎内での説明聴取にとどまり、会場予定地である夢洲（ゆめしま）における現地視察を実施することはかなわなかった。大阪府・市は万博の主催者である博覧会協会が進める各種業務に対し、協力・連携の立場で参画している。そのため、今後の調査においては、机上での説明にとどまらず、実際に現場に足を運び、会場整備や輸送動線、安全対策等に関する現地調査を行う必要があると考え、今回の調査を実施することとした。